

平成26年春号 Vol.7

<発行・編集>喜多方市立図書館

指定管理者 株式会社 図書館流通センター

〒966-0822 喜多方市字柳原7503-1

TEL:0241-22-1855



ききみみずきん

●<http://tosyokan.city.kitakata.fukushima.jp/>

4月～6月の図書館スケジュール 平日9:30～19:00 土日祝日9:30～17:30

4月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
特別整理期間						
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

5月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

- 休館日
- おはなしドライブ(11:00～11:30)
- ちっちゃなおはなしかい(11:00～11:20)
- * ユニットおりがみ教室(10:00～11:30)
- 生け花講座(10:30～11:30)

図書館からのお知らせ

「いざ、将棋の世界へ」

～特集展示と将棋名人戦記念パネル展～

第72期将棋名人戦第2局の開催地に喜多方市が決定しました！

図書館では、将棋の指し方や棋士に関する資料を展示します。

また、将棋名人戦記念のパネル展示も同時開催します！

将棋が得意な方はもちろん、初めて将棋に触れるという方もこの機会にぜひご覧ください。

日程:平成26年4月6日(日)～5月6日(火)

場所:喜多方市立図書館 玄関ロビー

協賛事業

詰将棋ウォークラリーinきたかた

平成26年4月19日(土)～5月6日(火)

喜多方市内協賛店に置かれた詰め将棋(3手詰め)の問題を解きながら歩くウォークラリーです！

喜多方市立図書館にも問題があります。来館して問題を解いてみませんか♪



生け花講座

日時:平成26年5月10日(土)

午前10時30分～11時30分

場所:喜多方市立図書館 2階 第二閲覧室

定員:5名

参加費:1,500円程度(お花代)

今回の生け花講座は、母の日がテーマです。図書館で準備するので道具を用意する必要はありません。気軽にご参加ください。



ユニットおりがみ教室

日時:平成26年 4月26日(土)

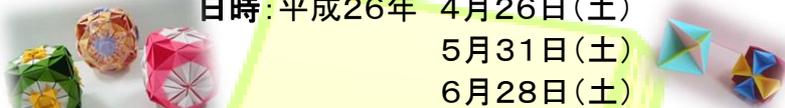
5月31日(土)

6月28日(土)

午前10時00分～11時30分

場所:喜多方市立図書館 2階 第二閲覧室

参加費:100円



毎月最終週の土曜日はユニットおりがみ教室を開催しています。1度の参加で1つの作品を完成させる事ができます。また、当日の申込参加も可能です。問合せは喜多方市立図書館まで。

いざ、将棋の世界へ

平成26年4月22日(火)、23日(水)に、喜多方市で第72期将棋名人戦第2局が開催されます。対局するのは森内俊之名人と羽生善治三冠！それにちなんで、今回のききみみずきんは将棋を特集します。名人戦観戦のお供にどうぞ。

将棋の歴史

将棋の原型は、古代インド発祥のチャトランガというゲームです。チャトランガは4人で対戦し、8×8の升目の盤上に歩兵、戦車、騎兵、象の4種の駒を配置し、2個のさいころを振って動かす駒の種類と動きを決めながら進めていくルールだったと伝えられています。駒の種類は古代インドの軍団編成を模したものでした。

その後いくつかのルートを通じて世界各地に伝わり、現在に残るゲームへと形を変えていきました。西方へはペルシャ地方からアラブ人によってヨーロッパ方面に広がり、現在のチェスとなりました。東方へは陸路や海路のシルクロードを通して広まり、中国象棋や朝鮮将棋に変化し、日本では日本将棋が成立しました。

世界の将棋はすべて駒は「取り捨て」のルールで、取った駒を自軍の駒として「再利用」するのは日本独自のもの。そのために日本将棋はさらに奥深いゲームになっています。

名人戦とは？

1937年に関根金次郎十三世名人が、名誉称号であった名人位を返上した事によって始まった、実力で名人を決める将棋界で最も長い歴史をもつタイトル戦です。

プロ棋士は厳然たる階級制。A級を筆頭に、B級一組二組、C級一組二組まで五つのクラスに分けられ、一年かけて順位戦を争います。各クラス上位は昇級し下位は降級します。トップ棋士と呼ばれるのは、定員10名のA級棋士。A級内で総当たり戦を行い、一位になった棋士が名人への挑戦権を得ます。

名人戦は七番勝負で先に4勝した方が勝ち。持ち時間は一人9時間で、二日間かけて一試合を戦います。喜多方で行われるのは、七番勝負のうちの第2局(2戦目)。将棋界の頂点を定める、目が離せない戦いです。

【参考文献】

- 『覆す力』 森内 俊之 小学館 2014 (796 円)
- 『世界大百科事典 13』 平凡社 1988 (R031 セ 13)
- 『日本大百科全書 11』 小学館 1994 (R031 ニ 11)

おすすめ将棋本！

棋士の著書や将棋をテーマにした小説などを、4/6(日)～5/6(火)まで特集コーナーに展示します。どうぞご利用ください

『盤上の夜』

宮内 悠介 / 著
東京創元社 2012.3 (F ミ)



古代インド、ヒマラヤの麓の小国で、生まれながらに捨てられた王子の胸に宿ったひとつの遊戯とは…？将棋の原型とされるチャトランガの成立秘話「象を飛ばした王子」など、将棋、チェッカー、麻雀、碁など、己の知力のみを頼りとする盤上遊戯の世界で、まだ見ぬ地平を目指した人々を描いた短編集。

『聖(さとし)の青春』

大崎 善生 / 著
講談社 2002.5 (796 円)



今回喜多方で対局するお二人と同世代で、“怪童”と畏れられながら、若くして病に倒れた一人の棋士がいました。村山聖、享年29。不治の病を抱えながら、全てを懸けてひたむきに名人を目指したその姿は、多くの人に忘れがたい印象を残しました。師匠や家族をはじめとする、彼を愛した人々との、交感の記録です。

その他のおすすめ将棋本

- 『大人がもう一度はじめる将棋入門』 加藤 一二三 / 著 産経新聞出版 2013.4 (796 円)
- 『勝負という生き方 将棋棋士32人の肖像』 高橋 呉郎 / 著 日本将棋連盟 2013.6 (796 円)
- 『将棋エッセイコレクション』 後藤 元気 / 編 筑摩書房 2014.2 (796 円)
- 『サラの柔らかな香車』 橋本 長道 / 著 集英社 2012.2 (F ナ)
- 『盤上のアルファ』 塩田 武士 / 著 講談社 2011.11 (F シ)

新着図書おすすめラインナップ！

毎週木曜日に新しい本が入ります
お楽しみに！



『調べるって楽しい！
インターネットに情報源を探す』
大串 夏身／著
青弓社 2013・4 (007 オ)



調べものはまずネットで検索！という方も多い昨今。でも求める情報に行きつかない、この情報ってどこまで信頼していいの？と悩むことも。図書館学のプロフェッショナルが、キーワード検索、画像検索のコツから、ウェブサービスの活用法、特定のテーマを掘り下げて調べる方法をわかりやすくレクチャーします。



『ご先祖さまも被災した
震災に向きあうお寺と神社』
小滝 ちひろ／著
岩波書店
2014・1 (185 コ)

東日本大震災の津波、原発事故によって、倒れた墓石や被害を受けた寺社の姿を目にした方も多いかと思えます。普段は意識していなくとも、お墓やお寺、神社は大切な心の拠り所でした。災害の渦中であって、お寺や神社は地域のコミュニティの中核としてどう歩んで来たのか。再建は果たされるのか。多くの課題を投げかける本です。

『読む時間』
アンドレ・ケルテス／撮影
創元社 2013・11 (748 ケ)



ハンガリー出身の世界的写真家・アンドレ・ケルテスによる、何かを「読む」人々の姿を集めた写真集。1915年から1970年にかけて、世界各地で撮影されたものです。洋の東西、老若男女を問わず、読む事に没頭するその姿は、どこか敬虔ささえも感じさせます。

こちらも新着！

- * 『ラヴ・レター』 (F コ)
小島 信夫／著 夏葉社 2013・12
- * 『写字室の旅』 (933 オ)
ポール・オースター／著 新潮社 2014・1
- * 『雑誌倶楽部』 (051 デ)
出久根 達郎／著 実業之日本社 2014・2
- * 『ルポMOOC革命
無料オンライン授業の衝撃』 (379 カ)
金成 隆一／著 岩波書店 2013・12

新着DVDの御案内

映画が娯楽の中心だった昭和30年代、
会津地方、そして喜多方で撮影された映画がありました

『警察日記』 (D778 ケ)
久松静児／監督
森繁久彌 二木てるみ／出演
1955年公開 日活



◎日活

磐梯山を臨む会津の小さな町の警察署に、今日も様々な人が訪れる。列車に置き去りにされた女の子と赤ん坊を拾い、引き取り手のない女の子を育てる事にする人の良い巡査を森繁久彌が演じた。女の子を演じた子役・二木てるみ(当時6歳)はこれがデビュー作。若き日の三國連太郎や穴戸錠も出演している。戦争の爪痕の残る苦しい時代、貧しさから犯してしまう罪と、取り締まらなければならない立場でありながら、その辛さをよく分かっていた警官たち。助け合って生きた人々を描く、心温まる人情スケッチ集。



◎独立プロ名画保存会

『キクとイサム』 (D778 キ)
今井正／監督
北林谷栄 高橋エミ子／出演
1959年公開
発売：新日本映画社
販売：紀伊國屋書店

東北の寒村に暮らすキクとイサムの姉弟は、黒人と日本人のハーフ。祖母のしげに育てられている。目立つ容姿のため村人の好奇の目にさらされる二人。イサムはアメリカの農園主に引き取られることに。残されたキクはある決断をする。

1958年11月、岩月町入田付の平沢集落を中心に、山都町上林などでロケが行われました。キク役の高橋エミ子さんはその後歌手高橋エミとして活躍。2007年3月には喜多方プラザでエミさんのコンサートとこの映画の上映が行われました。(参考資料：「ほっと・ねっと」2006年12月10日号)

なんだか最近、街中に不思議な文字の看板を見かけませんか？
なんて読むんだろうと思わず足を止めてしまいますね。

なぜ、喜多方で漢字？

その中心人物である楽篆家 高橋政巳さんにお話を聞いてきました。



——楽篆家(らくてんか)とは？

私が作った造語です。楽篆家の【篆】は篆書、3000年前～2500年前の周の時代～秦の時代の間の文字を大まかに篆書と呼んでいます。私は古代文字の事を簡単に、篆書と呼んでいます。

【楽篆家】とは、古代文字をまさに楽しんでいる人、楽しみながら古代文字を一人でも多くの人に伝える役割だと思えます。

——高橋さんから見た漢字(文字)の魅力とは？

漢字の完成されたデザインの素晴らしさは現代の人が見ても目新しいと思います。外国の方は更に目新しく、その字に意味が介在している事に感動するんですよね。また、文字(象形)は“絵”であるが、そこに意味(精神性)が含まれている所が魅力だと思います。

漢字の持つ力、作った人たちの精神性や倫理観は、現代の人間への警鐘であり、必要なものだと感じています。

感謝や人や親を敬う心など、子ども達にも漢字を通してぜひ知ってもらいたいです。

——今回、喜多方市の「酣って読めっかよ？読めねがったら喜多方にきてくなんしょ」という古代文字を生かした取り組みが、タビカレで採用されました。今年2月2日に行われたイベント「タビカレ学園祭」の来場者投票で総合部門1位に選ばれました。高橋さんはどのように感じていますか？

漢字に何があるのか？どんなものなのかと皆さん興味が湧くと思います。観光庁の方も漢字を使った取り組みに関心を持ってくださいました。

タビカレなので、観光資源としての“漢字”なのですが、喜多方に来てくれた子ども達には教育としての“漢字”という面も持っています。

それ以上の説得力はないだろうと思っていました。漢字は誰でも知っているし、書くし、自分の名前だって漢字です。子どもの教育でも漢字を学ぶ事は有意義です。

——市民団体「喜多方を漢字のまちにする会」設立の経緯について教えてください。

2010年に喜多方で講演会をしたいと考えていた時、私のところの職員2人が講演会開催の支援をしてくれたんです。そこで多くの市民の方が興味を持ってくださったのがきっかけです。小さな講演会から大きな活動になっていったという感じです。

漢字を好きになった人達が集まり、会を運営してくださっています。

しかも、利益追求ではなく、それぞれの楽しみとして、もっと漢字を伝えたいという思いから活動されている事が嬉しく感じます。

(ちなみに、高橋さんは「喜多方を漢字のまちにする会」の顧問というお立場だそうです。)

プロフィール

楽篆家 高橋 政巳【たかはしまさみ】

1947年生まれ。

市内にある「楽篆工房(らくてんこうぼう)」主宰。

木や石に漢字を彫る刻字の草分け的存在であり、象形文字・甲骨文字・金文・篆書を基にした書体は多くの人を魅了している。

喜多方を拠点に、毎日展審査会員、日本刻字協会常任理事・審査員、欣刻会会長を努めるなど活動している。

【タビカレ】とは...

各観光地、旅行会社、旅行者の方々が知恵や意見を出し合い「今までにない国内観光の魅力を遊んで学ぶ場」として、「日本タビカレッジ」(通称「タビカレ」という架空の教育機関をコンセプトとし国土交通省観光庁が開設。

URL: <http://tabicollege.jp/>

——今後の活動について。

学校教育の中に漢字をもっと取り入れていただく活動をしたいと考えています。

また、多くの観光客の方に楽しんでいただける観光資源を作り出していきたいと思っています。漢字を目的に喜多方へ来た方にきちんと伝えられるような場所や人を増やしたいです。

図書館ここだけの話

みなさまの図書館をお預かりし、この春5年目を迎えました。使い勝手はいかがででしょうか？スタッフの対応はいかがですか？みなさまの生活の一部として、なくてはならない場所を目指し、今年度も一生懸命図書館の運営をしていきたいとスタッフ一同決意をしております。まだまだ不足の点もあります。みなさまからご指摘をいただきながら精進してまいります。これからも図書館を応援してください。(館長)

【編集後記】

*今回、『ききみみずきん』を作るにあたって、楽篆家の高橋先生にインタビューをさせていただきました。快く受け入れてくださり、ありがとうございました。(K・U)

*棋士の本に読みふけり、古い映画を楽しんで、今回の「ききみみずきん」は出来上がりました。新しい世界に触れられることを楽しみに毎回作っています。(A・S)